

マザーハウス

たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。  
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



2022

2月号

- 2 理事長挨拶
- 4 社会の声①
- 6 育児日記
- 7 ささきみつおコーナー
- 8 塀の中のたより

- 15 つぶやき！
- 16 社会の声②
- 21 健康相談窓口
- 22 ラブリーDAYS
- 22 行事予定
- 23 回復プログラム 実践

表紙…死刑囚

♪移送・出所される方は必ずご一報ください。  
MLP（文通）に参加している方は文通相手へ  
のお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出  
人欄の住所で確認できるため）。MLPに参加し  
ていない方は事務局にご連絡ください。  
♪23ページのお知らせをご確認願います。

## 理事長挨拶

皆さん、いかがお過ごしでしょうか？コロナが猛威を振るっている状況であり、孤立と孤独の社会になっていると感じます。

先月、当法人で要支援者の一人であるSさんがコロナに感染してしまい、彼のサポートのため病院に同行したスタッフと、Sさんに接触した者が濃厚接触者となり、PCR検査を受け、保健所へ連絡して指示を受けました。検査の結果は陰性でしたが、十日間自宅待機となり、事務局は大変な状況となりました。でも仲間たちが応援して助けてくれました。

私はSさんと関わりのある神父と、二人で生まれて初めて防護服を着用して彼の自宅マンションに入りしました。先に医療関係者が入室していましたが、Sさんが医師の診察を拒否し、対応に苦労していました。その後、救急隊員も到着し、医療従事者以外は部屋から出るように言われたのですが、Sさんが治療を拒否したので全員が帰宅することになりました。

した。その晩、神父と別々で神様に祈りました。

翌朝、民間の救急隊員と車椅子を用意してSさん宅に向かったところ、昨夜とは全く違って素直に車椅子に乗ったので、びっくりしました。あれだけ病院に行くことに抵抗していたSさんが自ら車椅子に乗り、救急車で病院に搬送され、入院となりました。診察の結果、肺炎にかかっていました。また、持病の肝硬変、C型肝炎もあり、治療を開始できると期待していました。

ところが、七十歳近くのSさんにとっては、今までのホームレス生活も関係してか、病状が悪化してしまい、二月二日の夕方、ケースワーカーから亡くなったとの報告を受けました。親族に連絡をして頂きましたが、誰も引き取り手がおらず、斎場ではコロナ感染者ということで立ち会うことが許可されませんでした。短い期間でしたが、神様が導いて下さったSさんとの出会いであり、特に、Sさんをサポートした当事者にとっては、介護の学びとなったようです。私自身、自由気ままなSさんとの触れ合いは、ありのままを受け入れることの学びでした。彼と出会ったとき、心の傷をたくさん持っている人で、今までよく生きて来たと感じました。住民票のことや介護サービスのことなど、大変なこともありましたが、Sさんとの関りは、キリストに触れていると感じられました。

二月七日の正午に、最後のお別れだけはマザーハウスの仲間ですることにしました。理事のW神父に、Sさんのためにマザーハウスでお別れミサを捧げて頂きました。

今年から羽生市に住んでいる八十歳近くのTさんを、東京に移すことにしました。Tさんが東京での生活を希望していたので、その願いを叶えてあげたいと思っていました。仲間たちの協力で引っ越しも無事終了し、事務所に来てお手伝いしたり、仲間たちと会話したり、子どもたちと一緒に遊んだりして過ごしています。

先日、受刑者の年金に関する事でC刑務所に行って来ました。外部に親族がないYさんにとって、年金の手続きは当法人に願います。しかし方法が無かったのだと思います。当法人に関わっている社会保険労務士の方に協力して頂き、年金が受給できるようにして頂きました。企業年金の受給の場合、現金払いにて請求し、振替払出証書をもとに郵便局の窓口で現金を受け取ります。ただし、年金が十万円以上の場合には名義人本人の証明書が必要となります（今回の場合は、年金手帳と、居所である刑務所の住所が記入された拘禁証明書が必要です）。Yさんと面会后、本人が理解していない点があったため、刑務所の庶務課に対し、受給に関して必要な書類等の要請をしてきました。



当法人が発行した「年金ガイドブック」を読んで頂き、刑務所内で保険料の免除申請を皆さんがご自身で行って下さい。また、年金の受給は五年間で時効となりますので、六十歳になったら請求手続きをして下さい。なお、企業年金は別なので、年金記録を確認して頂き、「基金」という文字があれば企業年金連合会に請求手続きをして下さい。十年の期間がなくても年金を受け取れます。これは社会復帰にあたりとても重要なことであり、是非、皆さんが住民登録している管轄の年金事務所に連絡をしてみして下さい。基礎年金番号が不明な方は、「委任状」と拘禁証明書をお送り頂ければ、年金事務所まで調べて頂くことが可能です。皆さんの大切な年金ですので、諦めることなくきちんと対応するべきです。私自身、免除申請が二年前の分まで遡れますので、十年支払ったことになりました。



t a t s u y a さん

受刑者の皆さん、当法人の年会費について勘違いしている方がいるので書かせて頂きます。年会費は当法人の運営費です。皆さんの手元に毎月届く、たよりや書籍の代金とは違います。そのことをご理解下さい。書籍に関しては、寄贈して下さる方がいらっしやるため、たよりに同封してお送りしています。書籍が必要で読みたいのであれば、「送るならこれにしてほしい、あれがいい」などと言うのではなく、自分で購入するのが基本です。今後、「なんで書籍が届かないのか」等の文句が続くようでしたら、書籍の同封を中止にしようと思います。書籍を無料で送るのは当たり前ではありません。多くの方の支援があるから実施できるのです。そのことを忘れないでいつも心に留めて頂きたいです。

よく、「マザーハウスでは何を支援してくれるのですか」と手紙が来ます。皆さんがいるところはどこですか？自分たちが回復プログラムを実施したり、文通したり、更生や回復や社会復帰について考えたり相談したりしている姿を見せるから、応援したり、協力したりする方が現れるのではないのでしょうか。社会は皆さんのことを犯罪者と見ているのです。社会はとても厳しいのです。私も社会の人たちから前科者と今も言われます。そして受刑者の人たちからも貧困ビジネスとか詐欺とか言われます。私は何を言われてもいいです。この活動を通してそのような行為はしていませんので、何とも思いませんが、逆

にその人たちがそのような考えしかできないこと、自分で確かめずに憶測や噂だけで判断してしまうことが悲しいです。全ては自分に返ってきます。そのことをよく考えて下さい。

マザーハウスで住宅支援をしていた方が突然いなくなり、片付けをしたところ、キッチンの流し台に穴をあけられていました。全部を交換する必要があり、三十万の費用が掛かることになりました。本人はどういうつもりか分かりませんが、住宅を借りる際の名義人がマザーハウスであるので、法人が責任を取るしかありません。正直に言って悔しいですが仕方ないです。

この活動を通して学ぶことは、相手を信用することです。このようなことが起きたとき、私はいつもキリストならどうするのだろうかと考えます。そして最後は、「あなたがその方を私と出会わせて下さいました。このマザーハウスの活動はあなたから命じられたものです。私には何も出来ませんので、神様、あなたが責任を取って下さい」と祈ります。私には何も無いから神様を信じて祈り、キリストの愛を実践するしかありません。だから神様に怒りや悔しさをぶつけて祈ります。正直な気持ちを祈ります。

つい最近、色々な言い訳をして裏切り、マザーハウスから出て行った人がいます。私には、自分のことばかりで逃げているとしか感

じられませんでした。住居の退去を告知しようと思いましたが、住む所がない人に対してそのようなことは道義上、出来ないもので、部屋が借りられるまで待とうと思います。でも、次の更新契約はしないと考えています。

苦しい中においてもキリストがそばにいて支えて下さっていることを感じるので、心は平安です。今日は二十六聖人のミサに参加してきました。殉教した人たちのことを考え、改めて信仰というものを学びました。

先日、ある区役所の区議さんから連絡がありました。「マザーハウスでは便利屋業をされているようですが、ゴミ屋敷の片付けをして頂くことはできますか」とのこと、早速、現場を拝見しました。二階建ての一軒家でしたが、玄関が開かず、すごい状況でした。おそらく片付けるのに三、四人で一か月ぐらいは掛かるのではないかと思います。仲間と協議した結果、引き受けることにしました。

マザーハウスにわざわざ依頼して下さったことに感謝します。しっかりと仕事をすることで、信用を頂くことができると思います。再犯防止と国や行政は言いますが、当事者抜きで計画書を作り、何をしたいのか分かりません。マザーハウスでは実践を通して社会に訴えて行きたいです。

## 社会の声

### 学生の感想①

■埼玉大学での講義「地域創生を考える」での学生のレポートをご紹介します（誤字脱字以外、原文ママです）。

—つづき—

レポートのテーマ..

「これからのキャリア形成に役立つと思ったこと」

☆

キャリアを作る上で人間関係の構築はやはり大事なのだなと感じた。今回の講師の先生もたくさんの繋がりの中で現状を掴んでいる

のだとわかり人付き合いについても大学生活で学んでいきたいと思った。

☆

傲慢にならず、常に謙虚でいるということ。これからキャリア形成をしていくうえで役に立つと考える。上司や友人と話す際に、威張った態度で接すると、傲慢な人だと思われるしまい、信用してもらえなくなるかもしれない。しかし、いつも謙虚な態度でいれば、何かを任せるときやいざというときに信用してもらえる。また、自分が困ったときに助けてくれることも多いだろう。常に謙虚でいるように意識していきたいと考える。

☆

刑務所から出所してきた人を「受刑者」「犯罪者」という色眼鏡で見ないで、個人と個人の関係と考えることは、様々なバックグラウンドを持つ人々の理解にも繋がると考えた。五十嵐さんのお話の中であった「本人の犯罪は本人のものである」ということから、一人ひとりを個人として見ることで重要性を感じた。色眼鏡を通さない個人と個人の関係を達成するために、「自分を見つめ直すこと」「自分に厳しく、他人に優しく」「謙虚な気持ち」で生きることが大切に行きたい。

☆

自分は教員を目指しています。もし教員になって担任を持つことになった時、全員のいい子というわけにはいかないと思います。間違ったことをしてしまった子どもがいた場合には自分がきちんと叱り、その子の更生を助けてあげたいと思いました。更生は一人でできないとおっしゃっていたので自分が担当する子どもたちには責任をもって最後まで付き合っていこうと決めました。

☆

いまから社会に出ていくうえで様々なバツググラウンドを持った人と出会うことがあると思うが、それぞれの背景のことにあまり注目しすぎないようにしたいと思った。受刑者が直接的にキャリア形成に役立つかどうかはわからなかったが、社会の中で弱者にある人にとって役に立つモノづくりや情報の発信などをしていくことも必要だと思った。

☆

当然法に触れるようなことをすることはいいけないが、それはもう過去のこと、として見られないのがいけないと思う。過去も時には重要だけど、過去だけではなくて、その人のこれからを重要視できるような人、可能性を

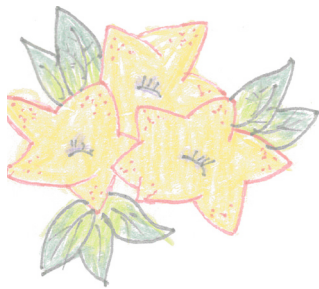
広げてあげられるような人になりたいと思った。

☆

元受刑者の方から聞く、受刑者の処遇であったり、心情であったりがリアルであり、インターネットで調べた情報や動画より、リアルティがありよい体験だと思いました。また、その後、普通の人に戻るためには周りの人の助けも必要であるんだと感じました。今日の講義で私もこのような活動に少しだけ興味がわいたので、もし機会があれば参加してみたいと思いました。

☆

今、教育臨床学という授業をとっていてその中で、主体と客体で関わるのではなく主体と主体で関わる重要性を学んでいる。元犯罪者というレッテルを貼り、客体として扱うのではなく、同じ社会に生きるものとして主体と主体でコミュニケーションすることが大切だなと思った。



華厳さん

レポートのテーマ..

「その他、

自分の将来やその道筋を考える上で、気づいたことや参考になったこと」

☆

一人の人間としてみることは、教育の場でもとても大切であると思います。私と同じ、人権を持っている人として見ることが出来れば、相手を征服するために怒鳴り散らしたり、虐待をしたりすることもないと思います。

また、誰もが罪を犯しかねないため、自分は絶対に大丈夫で、犯罪をする人とは違うと思う傲慢さが危ないということを知りました。これは、障害を持った人たちが、性の多様性の話にもつながると思います。一人一人が同じ可能性を持っているということが大事だと思います。

☆

この講義の始めに五十嵐さんの経歴を聞いたとき、私は正直「え、どうなの?」と思ってしまいました。しかし、五十嵐さんのお話を聞いてすぐにこれは間違いであるということに気づかされました。私は「元受刑者」という言葉にとらわれてしまい、五十嵐さんそ



のものを理解しようとしていなかったのです。この講義を受けて、相手がどんな環境に置かれていたとしても一人の人間として向き合うことが大切であるということを学びました。

刑期を終えて社会に出てきた人たちを支えるためには私たち市民が言葉に踊らされずに一人の人間として向き合うことが大切だと思います。今日は貴重な時間を作っていたいただき、ありがとうございました。

☆

個人的には今までの講義で一番心に残った。熱心に、真剣に私たちに話してくれているんだというのが伝わってきた。

☆

社会の制度が罪を犯した人の再犯を妨げていることを恥ずかしながら初めて知りました。それではもう一度社会に戻っていくのは厳しく、再犯をする人も減らないと感じます。社会的に女性や子供、高齢者は弱者だと言われますがそれ以上に弱者とも思われたい、厳しい状況にある人に初めて気が付きました。罪を犯したことは悪いことです。しかし、お話の中でこちらを見てほしかった、愛情が欲しかったとおっしゃっていて責めきれない思いました。

自分の見方や考え方を变えるのは非常に難しいことです。今回のことから一面的な見方ではない考えが必要だと改めて感じましたし、弱者ともされていけない以上、私たちが声を上げて戻ってこられる、戻りたいと思える社会を構築しなくてはいけないのかもしれないと考えさせられました。

☆

失礼な言い方になってしまいかもしれませんが、実際に罪を犯したからこそ、気持ちなどの面で分かり合えることはあるのだろうと感じました。今まで元受刑者の話を聞くことがなかったのも、今回リアルな現実を目の当たりにして、驚きを隠せなかったことが多くありました。講師さんの力強い語り口はとても心に刺さるものがありました。

☆

犯罪に関わるお話を聞く機会はなかなか無いので、今回の講義はとても衝撃的で新鮮に感じのお話ばかりでした。自分の犯罪やそれに関わる人々に対する考え方が大きく変わりました。ありがとうございました。

—おわり—

五十嵐亜利沙（妻）による

## 育児日記

長男A君のクラスがコロナで学級閉鎖になって、授業はオンラインで受けています。

授業風景が見えるので、A君はクラスで大人しい性格だというのがよく分かります。

長女Kちゃんは、幼稚園の男の子S君とても仲が良くてよく一緒に遊んでいます。本当に仲が良くてカップルに見えます（笑）。S君は、「好きすぎるーKちゃんを持って帰りたい」と言っていました。

次女のRちゃんはお姉ちゃんと一緒にプールに通い始めました。

潜ることができるようになって、とても楽しんでいます。

三女のMちゃんは、外に出掛けると、歩こうとしないで抱っこをせがみます。歩かせようとすると地べたに座り込んで泣きます。

泣き顔もとっても可愛いです♡



## ささきみつお コーナー

### 一矢の祈り

#### 一．車椅子の女の子の癒し

「うゝっ、うゝっ、うゝっ」。

行きつけのカフェで聖書を読んでいた時、いつも一人で来ている車椅子の女の子が、大きく体を捻じ曲げ苦しそうに唸り始めた。

♪ ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

彼女は全身麻痺で、コーヒーを飲むにも、大変な動作が必要だった。

すぐに女性の店員が駆けつけて、「大丈夫よ、すぐ治るからね」と励ましながら、十五分以上も彼女の背中をさすってあげる。

十年近く、こんな光景を月に一、二回見かけてきた。ある時、思わず「主よ、どうぞこの女の子の麻痺を癒し、車椅子から解放してあげて下さい」と心を込めて祈った。

数日前のことだった。なんと、彼女が車椅子なしで店の椅子に一人で座っていたので、非常に驚いた。車椅子を探して見まわしたが、どこにもない。

しばらくして、父親らしき男性が入ってきて、彼女と手を繋ぎ、嬉しそうに二人で出て行った。

麻痺は少し残っているようだったが、彼女はしっかり歩いていた。その後ろ姿を見ながら、心から感動した。

#### 二．ビザの更新と魂の救い

ある時、中国人のビザの案件を扱った。日本語学校に通っていた彼が事件を起こしたた

め、日本滞在のビザ更新が拒絶されてしまった。

入国管理局に行って交渉したが、だめだった。

中国の親戚縁者から資金援助を受けて日本に來た彼は、途中で帰国するわけにはない。「こんなことで帰国するなら、死んだ方がましです」と、悲嘆にくれていた。

ちょうど教会に行き始めたということ、中国語の聖書を渡し、「ヨハネによる福音書の十六章二十四節を暗記して、ビザ更新が認めてもらえるように祈りなさい」と言うと、「わかりました、毎日必死に祈ります。もしビザが更新されたら、洗礼を受けます」と答えてくれた。

その彼と一緒に入国管理局で手続きをしていた時、日本語学校で彼の担任をしていた若い教師が付き添ってくれた。非常に無口な青年で、一言二言挨拶を交わしただけで完全に沈黙してしまった。

私は時間を持て余し、「主よ、この青年がキリストを信じて、福音の教師になりますように」と彼の救いを真剣に祈った。

その後、奇跡的にビザが更新され、約束通り中国人の彼は喜んで洗礼を受けた。

実は、その洗礼式に日本語学校の教師も参加し、その場でキリストを信じて救われた。

そして、その時に教会で出会った女性と結婚し、後に牧師になり、今では聖書を教えている。

### 三・一矢の祈り

『一矢（いっし）の祈り』って知っていますか？。

ふと、年配のクリスチャンからこう尋ねられたことを思い出した。

「心を込めた祈りは、たった一回でも神様に届きますよ」。

これがその人の口癖だった。

キリストも、同じことをくどくど祈らず、癒しにしても、悪霊の追い出しにしても、一回しか祈っていない。

「そうか、あの一回の祈りを神様がかなえて下さったのだ！」と実感した。

このように、心の思いを込めた祈りは、天に向かって矢のように放たれ、たった一回の祈りでも、一直線に天の父に到達する。

もちろん、一回しか祈ってはいけない、ということではない。

祈りの本質は、神との霊的な交わりである。だから、絶えず祈り、また時には、ひたすら祈り続けるべきである。（テサロニケ人への第一の手紙 五章十七節 / コロサイ人への手紙 四章二節）

「今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう」（ヨハネによる福音書 十六章二十四節）

考えると

うつになる

信じると

らくになる

愛すると

うれしくなる

みつあ

## 塀の中のたより

受刑者からこんなお手紙が届いています

### リスタート

北風小僧さん

十一月末に、班長の密告により、私を含め四人が調査となりました。当初はその班長に対しての恨みが心を支配し、殺伐とした暮らしを送っていました。それに加え、共に調査になった者たちへの申し訳なさに、どうしたら良いのか分からず、私は自暴自棄になりかけていました。

今回は刑務官全員を敵に回すような事犯をやってしまいました。にもかかわらず、以前も世話になっていた懲罰棟の舍房の担当さんからは、多くの有難い言葉を掛けてもらいました。逮捕され九年。私はこの間に、言葉というものの大切さを知り、言葉を学んできた



ので、人の真摯な心から出される言葉には非常に敏感になっています。配役前にその担当さんから掛けられた言葉に思わず涙してしまいました。刑務所に来て、これまでこんなことは無かったので、自分でも驚きました。これほど落ちぶれた自分にまだ有難い言葉を掛けて下さる方がいるのだと、誠に意気に感じ（「相手の何かをしようとする心持ちに、自分も何かをしようという気になる」、これまでの自分の姿勢を改め、立ち直ろうと決意致しました。懲罰も、思っていた日数よりも遥かに少なくなり、工場にもまさかの配役となりました。そこには刑務所側の思いのようなものを痛く感じ、そのことに応えねば、廃った（すたった）男がさらに廃ると私は思いました。

私の処遇の決定の際、賛成派、反対派という構図で議論があったのかも知れません。もう一度私を信じて下さった方のためにも、ともに調査となった者のためにも、私は廃るわけにはいきません。迷惑を掛けてしまった全ての人に対する十字架を全身に背負い、心に刺さる言葉をくれた担当さんの言葉を心に銘記し、下を向かず前を向いて頑張ります。その道しかありません。

今回は多くの人を裏切りました。世話になった人、それが官であっても、その気持ちを踏みにじるという行いがこれほど痛いことだとは思いませんでした。色々なかたちで私

の立ち直りを信じて下さった方々へ感謝し、残りをしっかりと務めたいと思います。同囚たちも、以前のバイタリティー溢れるスタイルで、どこかの工場で元気にやっていると思います。

## 理不尽な対応

アフロ犬さん

今回はあまりに理不尽な出来事があり、自分一人ではどうしたら良いのか答えが見えなため、筆を執りました。

昨年末、職員が絡んだ不正連絡の疑いということで調査になりました。私自身はこの職員との個人的関係は一切無く、私からは一切依頼もしていないのに、この職員から私の名前も出ているとのことと拘束されました。同じように複数人の受刑者が拘束されたと聞いています。

正直、この職員は受刑者に筆絡（ろうらく）され、情報を漏らしたり不正を仲介したりしていたとんでもない人間です。言っていることも支離滅裂です。この職員の証言だけで拘束するというやり方は間違いだと思います。

結局、私の案件は証拠もないし、不正が認定されずに終わりました。ところが体裁を整えるために注意とし、工場を変えられたのです。この判断がどうにも納得できません。私と同じように調査が解除になった人たちも、懲罰を受けている人たちも、全員工場が変わるらしいです。なぜ、関係ない職員のせいで私が不利益を被るのか理解できません。どうにもこの職員のことを許せません。

前の工場では大切な出会いもあり、できれば最後まで務めたかったところですが、告知を受けた以上、従うしかないのが懲役です。

過去の失敗で学んだことを教訓に、見栄を張らずに精進します。心機一転、頑張ります。そして仲間と誓った約束に向かって進んでいきます！皆様も頑張ってください！



死刑囚

## コロナ禍の刑務所生活

大阪のピーちゃんさん

逮捕されてから十八年以上が経過しました。私にとって初めてとなる職業訓練で、北陸地方の刑務所に行っていたのですが、訓練終了の一週間前のある日のこと、時刻はちょうど午後一時頃で、いつもと変わらず午後からの職訓の実習を行っていました。突然、「全受刑者は作業等を中止し、速やかに還室用意をして下さい」とのアナウンスが流れ、慌ただしく居室へと戻ることに……。事情もよく分からず「何事だろう?」と黙っていたら、再び告知放送があり、「当所の受刑者がコロナウイルスに感染した」とのことでした。

翌日の夜に全受刑者がPCR検査を受け、最終的に二十〜七十代の受刑者計七名の感染が判明。後の調べによって、三十代の職員により感染したことが分かったわけなのですが、この感染者七名は、同じ部屋で生活する雑居部屋の者たちでした。普段からマスク着用が義務付けられているにもかかわらず、この結果なので、感染力の恐ろしさを見せつけられたように思いました。当時職訓中の私も六人部屋にて生活中でした。しかもこの刑務所内のほぼ全ての受刑者は、まだ一度もワクチン接種をしたことのない者ばかりでしたので、とても不安でした。

コロナ禍でも雑居生活を強いられることに問題があるようにも思いました。と言いますのも、就寝時はマスクを外しますし、狭い雑居部屋内に六〜七人での生活が当たり前前の状態なので、眠っている時に誰か一人でも、クシャミや咳でもすればアウトです。全員が布団を敷くと、隣の人と掛け布団が重なるのが普通、という狭さでしたので、ウイルスが蔓延するのもしゃあありません。

ちなみに感染発覚以降、しばらくの間、全受刑者が強制隔離されました。その期間は十五日間にも及んだわけなのですが、炊事工場や洗濯工場の受刑者も全て隔離されたので、その間の我々受刑者の下着洗濯は職員さんがしてくれることになり、食事は全て外部業者による仕出し弁当となりました。本当に久しぶりの白米。そして飛び上がるほど美味しいおかず。朝昼夕ととても美味で、同部屋の皆が毎食食べる度に目を輝かせていたのを今でもよく覚えています。ある人がぼそっと言った、「普段我々は一体何を食べていたんだろう?」という一言も印象的でした。刑務所内の食事と、外の世界の食事の違いを実感した瞬間でもありました。

その後は、残り一週間の職訓も無事に再開され、最終的に七種類の資格を取得することができました。頭の悪い私でも頑張れば何とかなるものなのだな、と今後の自信にも繋がりました。自分にとってはプラスになること

ばかりの一年間でしたので、職訓に行けて本当に良かったと思っています。携わって下さった全ての職員の方々にお礼を言いたいぐらいです。それにしても職訓中、コロナの影響で、一年間のうちに十五回も転房したのに驚かされました。

元の施設へ戻るための移送日までもう決まっていたのですが、今回のコロナ騒動の影響で延期となり、移送までの間は一般工場に下りて、短期刑の人たちと一緒に刑務作業をして過ごしていました。五十名ほどの受刑者が作業している工場でしたが、皆本当に優しい人たちはばかりでとても過ごしやすかったです。



tatsuyaさん

そして、私が元いた刑務所へ再び戻ること  
に……。その日は六時に起床し、取調室内にて  
慌てて朝食を食べ、すぐに施設を出発。平日  
だというのに駅中は人だらけで、そのおかげ  
もあり、手錠姿の私が目立ちにくく、とても  
有難く感じました。この姿だけは本当に惨め  
でなりません。駅の中に超有名なチーズケー  
キのお店があるのですが、店の前を通りか  
かった時にその香りに体が反応し、思わず進  
む足先が店の方に向きかけました。出所した  
らワンホールごと購入して、家族と一緒に食  
べたいなあと思いました。

新幹線に乗り、その車内で、コンビニで購  
入した「これが鶏竜田揚げ弁当、京都伊右衛  
門P.E.T.」を飲食。本当に美味しかったです。  
その後は電車を乗り継ぎ、午後三時に刑務所  
に到着。二週間の隔離生活後に、元々私がい  
た金属工場へ久しぶりに戻ることになりまし  
たが、知っている人がほとんど残っておらず  
驚きました。特別会いたかった人との再会も  
かなわず、とても寂しかったです。

この一年ほどの間にトラブルが勃発しま  
くっていたらしく、未だにそれが尾を引いて  
いて、私が戻った数日後にも作業中にトラブ  
ルが発生……。多数の職員が走って駆け付け、  
工場内の立役などが続々と姿を消しました。

現在、工場内のメンバーは私を含めて二十  
名弱。過去最少の人員ではないでしょうか。  
人が少なくとも工場は稼働させなければなり

ませんので、残されたメンバーで力を合わせ  
て頑張っていきたいと思っています。

## 「女性と文通したい」 と書いたことについて

Y 刑 D さん

お手紙を下さり有難うございます。私は申  
し訳ない気持ちでいっぱいです。私は友人に  
マザーハウスのことを聞き、文通もできると  
聞いて正直、淋しさもあり、女性との文通を  
希望するという手紙を書きました。その返信  
の手紙を読み、私は考えました。

私は犯罪をして刑務所に務めています。罪  
を反省して更生し、自分自身の問題点につい  
て考え、知り直す必要があります。社会復帰  
後に再犯をしないためには、自分を知ること  
が大切だと思います。マザーハウスへ入会し  
たいという私が、いきなり女性と文通したい  
と書き、受け取った方が「なんだ、こいつは」  
「こんなやつは入会させられない」と思うの  
は当然です。マザーハウスは、私たち受刑者  
と真剣に向き合い、社会復帰後に再犯しない  
ために心から変わってほしい、という考えを  
しているのだと私は思いました。ですが私は  
淋しいからと、女性と文通させてくれ、入会

させてくれ、自分の暴力性を直すためにも文  
通等をして指導して助けて欲しいと、自分の  
ことばかり書いた手紙を送ってしまいました  
た。一度失った信用はなかなか取り戻せませ  
ん。それなのに私は自分が、自分が、と……。  
大変申し訳ありませんでした。

手紙を受け取る方の気持ちも考えずに、私  
はどうしようもないやつです。私は一般常識  
がありませんでした。ですが私が子どもの時  
に養父より暴力をずっと受け続け、それから  
逃れるためには暴力しかないと考え、その暴  
力の力を使う自分を変えたい、という気持ち  
は本当です。私は自分のことを、自己中心的  
で、周りの者の気持ちを考えずに自分を正当  
化するところがある、と思っています。人との  
付き合いに真剣に取り組むこともなく、上  
辺だけで他人を信用しないところもありま  
す。私は他人を信用することが恐いです。他  
人に心を開くことがとても恐いです。それが  
家族でも。信用した人、心を開いた人々に私  
は子どもの頃に裏切られて酷いことをされて  
いました。本来、このような私の心の内を話  
すこともないのですが、手紙を読み、私のこ  
とを真剣に考え正面からぶつかってきてくれ  
る方ならと思い、こうして手紙を書いていま  
す。

マザーハウスへの入会、文通の希望は今し  
ようと思いません。というより、今の私がそ  
れを希望することは、相手に対して失礼なこ



とだと思っからです。相手の気持ちも考えずに、自分が、自分と言う私はどうすれば変わるのかと考えてみました。自分が言われたり、されたりして嫌なことは、相手にしない。何か言ったりする前に、考えて言動する。相手に何か言われたり、相手が怒ったりしている時に、まず相手が、相手が、ではなく、自分にいけないところは無かったか考え、それを直す努力をする。などと考えました。現在これらのことを実行しています。

人は一人では生きていけません。相手のことを考え、他人に対してすることは自分のためでもあります。自分が、自分が、と自己中心的に考え、自分を正当化して自分の良いように生きていては、社会復帰後、私はまた刑務所に来ることになると、今回自分自身のことを考えてみて思いました。今回の犯罪も、自己中心的な考えや、自分を正当化して自分の良いように生きてきた結果だからです。

女性と文通したいと言ったことも同じことです。淋しいから女性と文通したい。自分のことばかりです。私は今、自分のことが恥ずかしいです。ですがこの恥ずかしい自分、自分の問題点を考え、気付き、直そうとする今の自分になれたのは、マザーハウスののおかげです。このようなことを言うのは間違っているかも知れませんが、私は、マザーハウスへ女性と文通したいという手紙を送り、今回返信を頂き、私の考えは甘い、もっと自分を考

えろ、と言って頂き、私に自分のことを考えるチャンスを下さったことに深く感謝しています。真剣に向き合っ下さり、正面からぶつかっ下さる方に出会えたこと、こんな私に手紙を下さることに深く感謝しています。「女性と文通したい、はい、いいですよ」と言うような方は私のためにならないと今は思い、現在は、自分について考えろ、それに気付き自分を変えろ、という考えに出合っ良かったと思っています。

私は心の弱い人間だと思っます。心の小さい人間です。何でも、自分が、自分が、と他人のことを考えず、自分さえ良ければそれでいい、と。私の生き方、考え方は間違っっていました。私は心から変わりたいです。他人を信用したいです。そして何より、他人から信用される、頼りにされる人になりたいです。社会復帰後、周りの者に「変わったね」と言われたいです。自分のことについての評価は自分でするのではなく、周りの者がするものだ、今回考えてみて気付きました。

私は少し新しい違っ自分に出会えたのかと思っます。今回私が考え、気付いたことが、今後の自分の人生の新しいスタートに役立っと思っます。私はもっと自分のことを考えて、自分を変えたいです。新しい自分にどんどんなりたいです。それが自分のためでもあり、他人に信用されて他人を信用することができ自分のなる一歩だと思っます。

私は手紙を読んだマザーハウスの人の心を傷つてしまいました。そのことにも気付きました。犯罪して刑務所にいる私は、淋しさを埋めるために生活しているわけではないのです。犯罪について反省して、自分について考え、自分の悪いところを直すために受刑生活をしているのです。考えれば考えるほど、自分のことに色々気付きます。自分のことは自分で考え、自分で気付き、自分で自分を変えることが大切なのです。全ては自分次第。口でいくら言うより行動で示すことが大切なのだ気付きました。人の出会い、繋がりには大切なのだ実感しています。一般常識、礼儀をわきまえた人になりたいです。

長々と書いてしまっ申し訳ありません。もしまた返信を頂けるようでしたら、願ひできますか。

## 今やるべきことを今すぐに

I 刑 T さん

先日はお手紙と差入れの本『心と魂の叫びに応えて』と賛美歌のプリントを送っ頂きました。お心遣い、本当に心から有難うございました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

手元に本が届いてから、手紙に書かれていた220ページのキッペス先生の講演「ゆるし」を読ませて頂きました。言葉で表すのは難しいのですが、その通りだなと実感させて頂くことがたくさんありました。今の私は、ゆるされることは無いと思いますし、ゆるしてもらおう、ゆるしてほしいという思い、甘えや、甘い考えを持ったらいけないと自分に言い聞かせています。主人に、キッペス先生と同じことを言われたことがありました。家族の心を傷つけてしまった事実と罪は、罪を犯す前のように元の通りには戻ることはできないと：キッペス先生の言われる通り、「責任を取ること」が大事です。罪を犯して刑務所に入り、六年が経ちました。この間、主人と話し合い、子どもが入学する年に離婚をすることになっていきます。引受人も今まで主人になって頂いていましたが、離婚と同時に辞退することになります。

私の中では、大切な人を大切にしていなかった罰だと思っていますし、責任の取り方の一つでもあると思っています。罪を犯した私を六年間支えて下さっている主人には、本当に頭が上がリません。キッペス先生は、「生きていること自体がプレゼントです。命を持っているから」と書かれていました。私は今、生かして頂いていると思っています。残りの人生、我が、我が、ではなく、弱い自分と向き合って、弱い自分を認めて、誰かのお役に立

たせて頂ける道を歩んでいきたいと思っています。等身大の自分のままで。

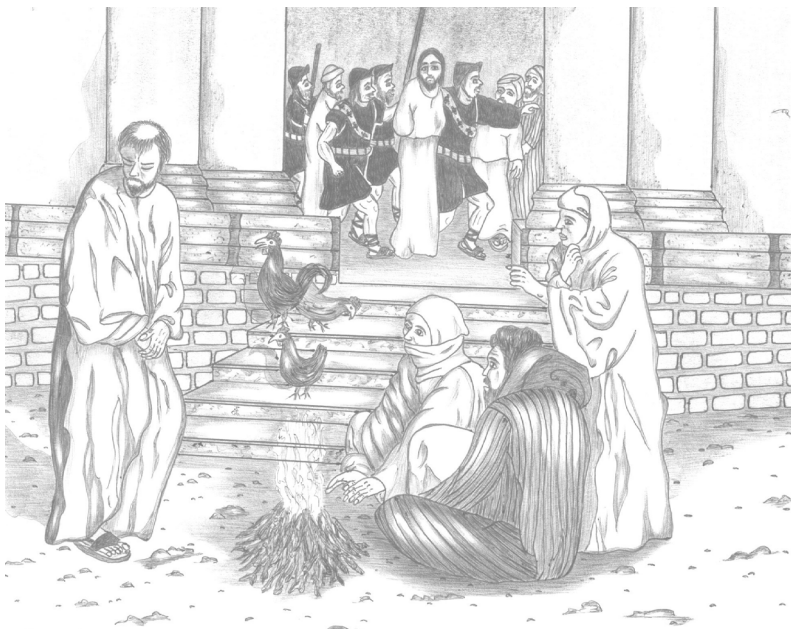
『心と魂の叫びに応えて』を読んでいる、松本サリン事件の被害者、河野さんの人柄、心から尊敬します。「今やるべきことを今すぐに、生き方の方向を決めて、あとは今やるべきことを精一杯やっていくことの積み重ね」。今がどんなに大切な、改めて身の引き締まる思いになりました。一番に河野さんの凄惨なところは、恨んだり憎んだりしてもおかしくない思いをしたのに：恨んだり憎んだりすることなく、受け入れていることです。私が見習わないといけない、お手本のような方だと思ったと同時に、心がスーッと軽くなったようにも思いました。

被爆体験をされた方の話など、全て読み切れておりませんが、内容がとても深く、心に届くものばかりで、たくさんの方の苦勞をされた方の言葉だからこそ、心に届くんだろうなとも思いましたし、私の中の思いを改めることができました。一生の後悔の中で、私はどうしていけばいいのか、生き方の方向を決めて一歩ずつ前へ歩んでいきたい、歩んでいきます。

罪を犯し、刑務所に入っている私に本を送って下さり、何よりも、貴重な時間を使ってお手紙を読んで下さり、返事を書いて頂き、お気持ちに本当に心から有難く、心から感謝

の思いでいっぱいです。お気持ちに伝えられるよう、日々精進して参ります。有難うございます。

頂いた賛美歌、声に出して歌えませんが、心の中で歌わせて頂いています。本と楽譜、大切にさせて頂きます。



死刑囚

## 幸せに対して 自分が本当はどう思っているのか

N 刑 K さん

手紙でご指摘のあったように、残り刑期が少なくなるにつれ、不安や焦りが大きくなり、他の人に対して悪い感情、例えば「この人は作業の段取りが悪くてダメだな」とか「本当に気が遣えないな」などという考えが頭に浮かび、それが態度や言動に出てしまっていると思います。

朝には、主の望むことを…などと祈っているのに、上記のような考えで一日を過ごし、夕方一人で悔やみ、悩む日々です。

考えと行動が一致するかどうかが難しいとおっしゃいましたが、まさしくその通りだと思います。こういう自分でありたい、私の場合、人に優しく相手を理解できる人になりたい、という目標があり、そのために考えたり祈って力を貸して頂いたりするのですが、いざその場に出くわすと、感情が湧いてきてしまいます。

それでも一つでもそういった感情を良いものへと変えられるように、最近は一日にできるだけ人の良いところを発見しよう、という活動をしています。それと、苦しい、イライラする時こそ、人に優しい言葉で会話しよう

と意識しています。急に全て上手くはいきません。一週間で一つできればいい、という感じでしたが、次の一週間では二つ、といった小さな成果ではありますが、続けることが大事だと思っています。

たよりを読んでいて、『反省させると犯罪者になります』という本が気になりました。「絶対にはいけないことだと分かりながら…」とありますが、そもそも「分かって」いたら、犯罪には至りません。「ばれなきゃ大丈夫」「このくらいなら」「皆、隠れて同じことをしている」、そういった考え方のもとで日頃から行動していたからこそ、犯罪へ至ったのだと感じます。私も人のことは言えず、「模範的な反省」にもものすごく心当たりがあります。所内でも色々な課題で模範的な（綺麗事や、体裁を気にした）反省文を書いてきましたし、本件で被害者宛に書いた謝罪の手紙も模範的なものであり、そこには被害者への心からの謝罪や反省の気持ちは全く無く、ただ少しでも罪が軽くなればいい、「何とかして助かりたい」という考えしかありませんでした。

私は、少しでも損得などを考えてする行動が「模範的」になるのではないかと考えています。刑務所内で、自分の工場での立場を良くするため、優遇に関わるからといった考えで行動していたのでは、そこに反省や被害者への償いがあるのでしょうか。長く刑務所に

居るからこそ、こうならないように改めて気を付けようと考えさせられました。

たよりを読んで、真っ先に頭に浮かんだのは、乃南アサ著の『しゃぼん玉』でした。内容を簡単に説明しますと、老人や女性ばかりを狙ったひったくり犯の主人公が、ふとしたキッカケから、山村で老女と生活し、周りから優しく包み込まれることで、自分の罪と向き合っていくのですが、周りから優しくされ、信じてもらえればもうほどこに、自分がしてきたことの罪深さが明確となり、悩み苦しむといった話です。

これがまさしく、「人の存在の大切さを感じることは、自分が奪った命への苦しみに繋がる」ということなのではないでしょうか。私がこの作品に出合ったのは、所内の上映会です。映画版を観て、当時ものすごく心を動かされたのです。そして先日、官本を借りる時にたまたま目に原作小説が入り、即借りました。

私は、自分は今まで自分のことだけを考えると犯罪をしたし、被害者も苦しんでいるのだから、とことん自分も不幸になって苦しむべきで、幸せになどなる資格はないと本心から思っていました。そうして生きることが被害者のためだと本気で考え、覚悟していました。でも、自分の幸せについて考え直してみました。将来こうしたい、というような期待



などではなく、幸せに対して自分が本当はどう思っているのか、ということを考えました。私が今まで幸せなどいらないと考えていたのは、恐らく強がりではなく、被害者などのことをダシにして、本心から目を逸らしていたに過ぎないでしょう。幸せになるための困難から逃げたくて言い訳をしていたのです。本心は幸せを求めているのです。だからこそ、人より上手いかならないとイライラしたり、嫉妬したりするのでしょうし、人より優遇されると嬉しいのでしょう。

私は幼い頃より、親などから愛情を多くもらっていたのですが、それよりも目先の欲求や感情を優先したいがために、時にそれを拒み、自分の良いように利用してきたのです。だから、周りの人の善意に気付かず、恵まれた環境に自分で嫌気がさしたり、面倒臭くなったりして、放り出してしまっているのです。

このことに気付いたのは最近で、もし以前から気付いていたら、前工場でのトラブルも無かったはずです。

私は、一人でも多くの受刑者の皆さんに、感じたこと、思ったことを、たよりなどに送ってほしいと思いました。頭で考えた内容を出力することで、今の自分の心情、状態を確認することができのです。小さな気付きが時に大きな心の動きや変化のきっかけになります。

す。厳しい言葉を頂くこともあります。それは相手がそれだけ本気で私たちと向き合ってくれているということでしょう。こういったやり取りをする機会は、刑務所だけでなく社会でもあまり無いのではないのでしょうか。だからこそ、この機に一人でも多くこのチャンスを手にしてほしいと思います。



熊本の貴水さん

「あなたの幸運を祈ります。No.5」

「塀の中のたより」のボリューム少なめ版です  
つぶやき！

ワクチンの注射も二回目です。に終わり、一応は落ち着いた生活を送っていますが、三回目もあるとのことなので、身体が心配になります。

昨年新しい舎房が建ち、引越となりしました。五十年以上の建物でかなり老朽化が進み、隙間風や虫の巣がかなりあったので、やっと建った新しい舎房に引っ越しする時は嬉しさいっぱいでした。感謝の日々で生活を送っています。やはり新しいのは良いものです。私の心も新たに、昔のような短気を起こすことなく、常に人に優しく思いやりをもって接していけるように、少しの自由を大切に使いながら、すべての人と同じ目線になりながら、残りの刑と人生を過ごせたらと思っています。

順境の日には喜び 逆境の日には反省せよ。これもあれも神のなさること（伝道の書七章十四節）。

(M刑 Nさん)

☆

先日頂いた手紙の中で、「刑務所の中で、出所後一人暮らしをしても大丈夫な生活習慣を身につけているのではないか」と書かれています。正直、そこまでのレベルには達していないと思います。確かに、時間厳守や対人関係の問題、清潔な環境を保つことなどは学べますが、その他の洗濯、料理、そして一番大事なお金の使い方などは学べません。そういうのを勉強できればいいのですが、それは教えてもらえないので、この先不安です。反省することや刑を務めることはもちろん大切なことなのですが、出所後ちゃんと生活していけるような訓練も必要ではないかなと思いました。

「自分で自分を育てて」とありますが、確かにそうだなと思いました。子どもの頃は周りの大人が色々教えてくれていましたが、三十歳を超えるとそういう風に教えてくれる人がいなくなってしまうと思います。そういう時はやっぱり自分で学ぶしかありません。成長していこう、という思いは持ち続けて行かなければと思います。成長していくのを止めたら可能性は広がりませんから。頑張りたいです。

(Y刑 Hさん)

## 社会の声

### 学生の感想②

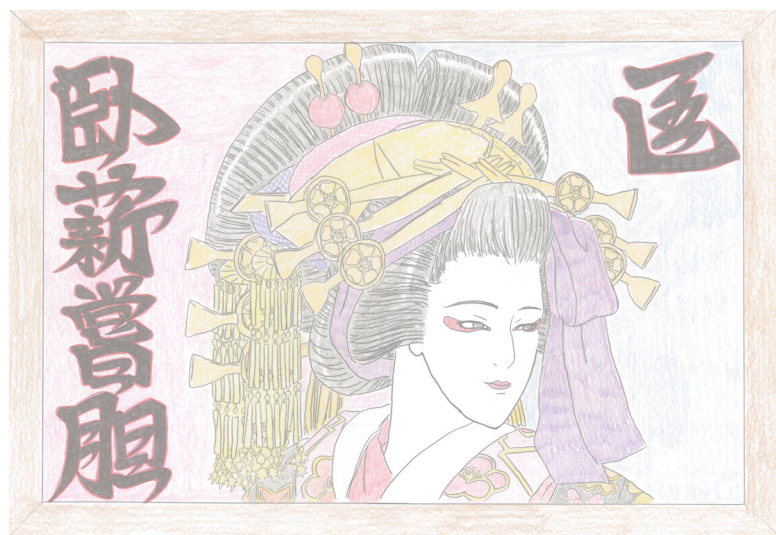
■岐阜保健大学での講義後に寄せられた感想をご紹介します(看護学部一年生より。誤字脱字以外、原文ママです)。

—つづき—

刑務所で受刑者への扱われかたがどんなにひどいものか、人権がないことが良く分かりました。私個人の考えでは、罪を犯した者が行くところだから良い扱いをされないのは当然の事だと、今までは思っていました。正直、逮捕歴がある人への印象は怖い、関わりたくないでした。自分の事や家族の事を危険にさらされたら嫌だし悪い印象ばかりでした。多くの人が同じことを思っていると思います。しかし、彼らも一人の人間で大切な命であることを忘れてはいけないと思います。本当に

罪を償って更生した人も努力してる人も助けを訴えている人も沢山いると思います。私たちがその助けにどれだけ気づけるか、関われるかが大切になっていきます。

なぜ関わるのが大事なのか、犯罪者として扱われてきてずっと孤独なので、犯罪者として生きているからです。それでは社会復帰はできないしいつまでたっても治らないです。そこで五十嵐さんは受刑者に手紙を送って関わった結果、それまで一度も笑ったことがない受刑者に笑顔ができたと話していました。このように一人の人間として関わる事が回復につながっていると分かりました。



リトル正座センチリーさん「揚巻」



そして、どんな人間でも犯罪を犯してしまふことを知りました。意図的に人を傷つけたり殺したり、殺すつもりなんて無かったのに自分が運転している車で人を殺めてしまうこともあるかもしれないと分かりました。私が一番ショックを受けたのは、日本で毎日殺人が起きていて、その相手が親族関係である事実です。自分の母親を刺し殺した事件も衝撃的で悲しいです。私は家族を愛しているし大切だから、信じられないです。一番愛し合っている人はずなのに殺害に至ってしまう。

母親を殺めてしまった人は最初から母親のことが憎かった訳ではないと思います。母親からの虐待や暴言に長年耐えてきて、限界がきてしまったと思います。どんな理由があるうと、人を殺すことは絶対にいけないけれど、精神的にも追い詰められた結果、犯罪を犯してしまう。愛していた人を殺してしまうこの世の中が悲しすぎます。

私が印象に残った言葉があります。それは「目の前の人を愛することが大切だけど難しい」。一番近くにいて一番理解して欲しい人との間で亀裂が起きてしまうことがあるっていうこと。

私は、大切な友達と意見が合わず対立してしまつた事があります。その時に思うことは同じです。「どうして大切な人なのに私のことを傷つけるのだろう」と思います。他人だったら対立が起こってもすぐ忘れるけれど、愛

している人だからこそ考えるし理解するのも難しい。だから、自分の生きている環境や人間関係がどれだけ大切か改めて知ることが出来ました。

医療従事者として、「置かれた場所で人を助けたい」という信念を曲げずに行動すること」と強く感じました。看護師になったら、多くの人と関わっているんな価値観や文化の人に出会ふと思います。自分と全く違う価値観を持つ人を絶対に否定せず、優しく接することを心がけること。問題を抱えている患者に寄り添って関わり続けること。これは医療では治せないことです。

ルールや規範は大切だけれど、人から愛され大切にされているから、生きる理由が見つかって医療に前向きになり、病気の回復につながると思います。そして、どんな経歴や人種でも平等に優しく関わることを心がけます。「助けて」と言えなくなつてしまつた社会を私たちが変えていく必要があると考えました。

## ☆

私は初めに受刑者の方からお話を聞くと聞いて驚きました。考えたこともなく、想像もつかなかつたので少し緊張していました。

五十嵐さんのお話を聞き始めたとき、「ほんとにこの方が刑務所に入っていたのか」と驚いたことを覚えています。

五十嵐さんは医務官を務めていた方が刑務官になり、受刑者の方を怒鳴りつけていたのを見て、人の痛みがわからない人には医療従事者になってほしくないとおっしゃっていました。私は刑務所内ではいつなにが起こるかわからないと思うので緊迫した空気になつてしまふのは仕方のないことなのではないかとも思いました。しかし、そこには受刑者の方にはやく更生して刑務所を出ていつてほしいという思いもあるのではないかと考えました。

私は実習などを通して、人一倍患者さんの心に寄り添いながら看護をしたいと思いました。そのためには患者さんをしっかりと見て、観察力を磨いていきたいと思っています。

言葉に出すのが苦手な人もあると思うので定期的に声をかけたり、顔色や表情などしっかり見て人一倍気づくことのできる人になりたいです。

また、私自身も被害者になつた経験があります。被害にあった当時は許せなかつたし、両親にも心配をかけてしまい、とても加害者のことは考えることができませんでした。しかし五十嵐さんは被害者の女性に「自分が犯



した罪は忘れないで。でも幸せになってほしい」と言われ、泣いてしまったそうです。同じ被害者を出さないためにも、私も自分が犯した罪は絶対に忘れないでほしいし、同じ過ちを繰り返さないでほしいと思いました。

しかし、受刑者の方をサポートしていくことも大切だということを今回の講義で知りました。母親に虐待をされてきた方が最終的に母親を殺してしまうという事件の話聞ききました。事件が起こる前に何かできることがあったのではないかとも思いましたし、心の傷は簡単には治らないため、長い年月がかかると思います。その方が社会に復帰するには誰かのサポートが必要だと思いました。その中で受刑者の方と手紙のやり取りをする「ラブレター・プロジェクト」というボランティア活動があることを知りました。日常の出来事、季節のことなど何気ない会話を手紙でやり取りする活動で、私にもできる活動があるということに驚きました。私にもできることは積極的に活動していきたいと思いました。

今回の講義でとても貴重なお話を聞くことができました。刑務所の中のお話や受刑者の方のお話、ボランティアのお話。私たちは医療従事者になりますが、病院に勤めていれば受刑者の方を看護することもあるかもしれません。その時は五十嵐さんのお話を思い出して看護していきたいと思いました。これから生かしていきたいと思いました。

## ☆

五十嵐氏の講義を受けて刑務所にいる方々も同じ人間なのだから最低な処分をしてほしくないなと思った。犯罪はどんなにやさしい人間でも犯してしまうからである。

手を出してしまったらどんな理由があっても負け、という言葉に考えさせられるものがあった。現在の受刑者、元受刑者がどれほど苦しく、辛い思いをしながら一日一日過ごされているのか。刑務所内の待遇は皆が思っている以上に「ほったらかし」「放置」というかんじだ。このような状況では、再犯率が低下しないのは当たり前だと思えてくる。

犯罪者だからと見捨て、軽蔑するのは、古い考え方だと思う。五十嵐さんが本の中で述べるように「元受刑者そして受刑者はひとりでは何も出来ない」。だからこそ、私たちが「助けて」と言えるような社会を作る手助けをする必要があるのだ。元受刑者が助けと言った時、私たちが喜んで救いの手を差し伸べるべきだと思う。

日本の殺人事件の大半が親族間で起こっており、自分に前科があれば、自分の子供の将来を左右することにもなる。どんなに信頼している家族でも、やっていいこととやってはいけないことがあって、また、「許し」があるからこそ大きな愛が生まれるのだと思う。五十嵐さんがおっしゃっていたように、目の前の人を愛することは難しいという意味が少しだけ分かったような気がした。

医療現場でも医療より大切なものがあって、人との関わり、優しさは病と立ち向かえるものとなる。

五十嵐さんは聖書を読むという行為がキリスト教との出会いにつながった。そこでひとりの人との出会いをきっかけとして、多くの人や書物、考え方との「出会い」を体験されて、本当にその人のことを考えて行動を起こすにはどうすればいいか、ということに気づかされて、時には一歩手前で考えてみることも大切なんだと考えさせられた。

ここまでで五十嵐さんはキリスト教との出会いをきっかけにして、出所者が生きることのできる世界を作ろうと活動されている。今では社会的役割を担っているのだ。元受刑者なのにもかかわらずここまで行動を起こされたことに私は大変驚かされた。



華厳さん

だからこそ最後に私たちに何ができるのかを考えてみたところ、人との出会いを大切にすること。何かのきっかけがあつて人と出会い、その人から助けを求められたら、その人にきちんと向き合つて、自分ができるところをやる。これは相手が犯罪をしたかどうかに関係なく、他者と関わるときの基本となる構えだろうと思う。

そして、何かの形でお互いを支えあうような人間とはいかなくても、ポジティブな変化につなげる事ができるかもしれない、と考えた。

## ☆

私は刑務所で起こっている問題を知り、驚きと同時に怒りを感じました。人を人として見ない考えがまず許せないです。このような教育という体で乱暴な行為が続いてしまっているのには、政府がこの問題に対し、軽視している、もしくは気づいていないことに原因があると思います。

教育という名の暴力は身近でもよくある話だと思えます。私も父や祖父が乱暴な性格のため、たまに暴力を受けたりしていました。その度にいつも、「これはお前のためにやっ」とるんやで、愛しとるで強く当たつとるんや

ぞ」と言われます。私は暴力が嫌いなので許すはずもなく、母に悪口を聞いてもらっていました。

このことに関してはよく考えていたので、自分の中での考え、結論が出ていました。結論は、その乱暴している人には、相手に理解させるための力、説明する能力が欠けているということ。これは家庭だけではありません。学校の中では、先生と生徒の関係。会社の中では、上司と部下の関係。教育者の説明する能力が欠けているがため、暴力などに走ってしまい、教育を受ける者が反発心や怒りなどにより、教育者よりも悪い存在になってしまうのが現状にあると思います。

そういう風に教育者が、教育者が言い続けているとキリがないですし、しょうがない事でもあると思います。しかし、それが問題になっている以上、解決しなければ、これらの社会は落ちぶれた人や犯罪者が増える一方だと思えます。経験が少ない私ですが、私なりに解決策を考えていました。

一つ目が、講話でも言っていた通り、この現状を知っている者が協力し、色々な角度から政府に訴えかけるといふものです。講話では、実際にあった刑務所での事件を例にチャンスを見計らって訴えてと言っていました。それが、それでは事件が起きてからしか対処ができないことになってしまいます。

事前に事件を防ぐために、まず多くの一般人に刑務所の現状を理解してもらうことが必要だと考えます。現状を知った人達が協力して政府に訴えるのが策だと思えます。そうすれば、若者の得意な「東になってかかる」も発揮でき、大きな力となると思います。

二つ目に、次の世代に繋いでいく私たちが、今このスパイラルから脱却すべく方法を見つけて出し、努力するという策です。その策にも私たちがこの現状を知っておかなければいけないという前提があります。先ほどの策よりも難しいものだと思います。

私のような考えの方が私以外にもいたとしても、それは全人口で見たときに、微数でしかありません。そこで必要なのが、私たちが最も苦手である、相手の意見を理解し尊重することです。仕事としてやっているものではなく、本当の自分としてのその能力が必要だと考えます。

よく聞き、理解し、相手にも自分の意見を理解してもらえようという説明力が大切だと思えます。お互いが自分の意見を伝えあい、広めていき、社会全体に浸透するように発信していくことが必要です。

長期に渡るとは思いますが、それを行なっていく事で、誰かがそのような運命であったとき、救えるかもしれません。

未来で生きる人達を救えるのは、今を生きる私たち以外にないと思います。私も、小さい活動ですが、家族など身近な人達に講話で学んだことを伝えていきたいと思っています。

☆

人間は孤独が一番つらく、そしてその典型的なところが刑務所ということです。刑務所に入ると最初の間は関わってくれる人がいても、どんな家族でさえ関わってくれなくなります。そして、孤独になっていくと回復するのが難しくなっていくます。

孤独ということが辛いということはもちろんわかりますが、今周りの人、友達に相談できることの幸せというのを忘れ、当たり前になっていたなと思いました。

そして、過去に検察庁でも犯罪に手を出したという話を聞き、犯罪はどんな人でも起こしてしまうかもしれないということを頭に置いて生活することは大切だなと思いました。

また、手を出したらどんな理由でも負け、手を出さなければ、正当な理由で相手を罰することができるし、社会の人も関わって応援してくれるかもしれません。

医療従事者にとって、目の前の人を愛することはとても大切で、患者さんを助けたい、救いたいという気持ちが必要です。そして、そういう人と出会うと社会復帰できるかも知れません。

医療では治すことのできないことも、刑務所のなかでいろんな人と交流して、自分が愛される人間、大事な人間、必要な人間ということを感じると回復するかもしれません。病は、人とのふれあいや人の優しさ、関わり方によって立ち向かい回復できることもあると思うので、全てが医療で治るものではなく、話を聞くということも大切だなと思いました。

私が一番心に残ったことは、受刑者も一人の人間だということです。罪を犯したから刑務所に入り罰を負うことは仕方がないことだと、前は思っていました。医療従事者の行動で受刑者の行動、考えが変わるかもしれないというのを聞き、医療従事者として、受刑者の痛みを感じることも必要なことだと思いました。

☆

私は、五十嵐さんの話を聞いて感じたことが三つあります。

一つ目は、私はテレビでしか刑務所を見たことがなかったので、刑務所の印象は静かな区間の中で、自分がしたことをただ反省するだけだと思っていました。ですが、刑務所は言うことを聞かないと、高齢の方や障害の方であろうと容赦なく怒鳴りつけると、おっしやっていました。

世界には自由で快適な刑務所での生活をしている国がある。私が高校の授業で習ったのは、ノルウェーにある世界一受刑者に優しい刑務所と呼ばれる所だ。そこは、自由時間に自分の好きなことができ、環境にやさしく自然豊かな場所であるため、受刑者の精神状態をよくすることができると言われています。そのおかげかノルウェーの再犯率は世界で一番低いともいわれているそうです。そのことを踏まえると、日本のように監視をされ言うことを聞かないと怒鳴られることを、当たり前にしてはいけなと思いました。

二つ目は、刑務所で体調が悪くなり、医務官に頼ったところ、寝とけば治ると言われたそうです。

刑務所はただでさえ人権がないのだから、辛さや痛みを分かちあけて、薬をあげていたらその人は、人を信じることができ頼っていいのだと思えていたと思います。

たとえ、刑務所にいたとしても、看護師の役目は助けを求めている人を助けることだと思っています。



私は目の前の人が辛そうにしているのに、見過ごすことは絶対にしたくないです。

三つ目は、五十嵐さんは、目の前の人を愛し大切にすることは難しいとおっしゃっていました。全国で殺人事件はほぼ毎日あり、その大半は親族関係と言われているそうです。

だれでも犯罪者の立場に立つことがあるとおっしゃっていました。私ももし自分の大切な人が殺されてしまったら、その殺した人を傷つけてしまうかもしれないので、誰しも加害者側に回るということも心に入れていきたいと思いました。

犯罪者の子供は学校でいじめを受けたり、就きたい職業につけなかったりする。そうならないようにしていかなければいけないと思いました。

—おわり—



tatsuyaさん

看護師 中谷先生による

## 健康相談窓口

### 耳ほぐし

こんにちは。寒いが続いていますね。もなく、春がやってきますので、それまでに心の準備もしていきたいと思っています。

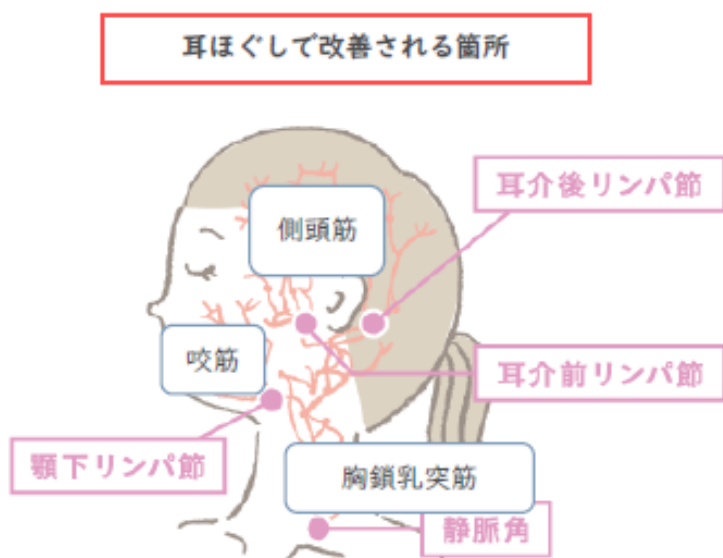
二月十四日からY施設での健康講座が始まります。年間二クール（毎週一回一時間の四回講座）を実施します。今年度の契約分が本講座で終了となります。コロナ禍のため、どうなるかはまだ分かりませんが、是非皆様に直接お会いし、声を届けていきたいと思っています。

前回に続いて今回ご紹介する「ほぐし」は、ストレスを緩める目的の耳ほぐしです。頭痛、めまい、肩こりに効果があると言われています。

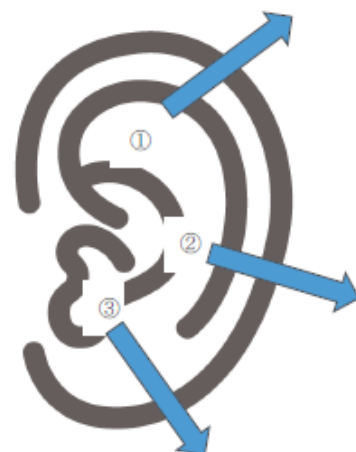
「耳」に普段触れることはありませんか？耳かきや、耳に水が入った時、耳鳴りなどの症

状が無ければ、多分あまり気にしない身体の部分であると思います。

「耳」は主に、軟骨と皮膚でできています。皮膚組織も薄く、毛細血管が沢山走っていて、冷えやすいけれど温まりやすい場所です。マッサージをするとすぐに温まり、耳まわりの血流が良くなります。周りの筋肉が連動して緩み、リンパの流れも改善し、美容効果もあります。



## 耳ほぐし



・耳を人差し指と親指で挟み、右図の①②③の場所からそれぞれ外に向かって、指を滑らせるように引っ張り抜く（左右三セット）。

・耳を前側に閉じるようにたたむ（左右十秒）。

・耳を上下に挟むようにたたむ（左右十秒）。

・耳の上部や下の耳たぶをつまんで、手前と後ろ側にねじる（左右三秒）。

※最初は痛くても、続けて行くと柔らかくなってきます。痛い時は無理しないで下さい。

## 参考文献

崎田ミナ（2021）

「肩こり 便秘 たるみ むくみ うつうつを自分の手でときほぐす！ひとりほぐし」（日経BP）

## 行事予定

なし

（コロナにより全てキャンセル）

五十嵐亜利沙（妻）による

## ラブリーDAYS

子ども中心の生活で、毎日にぎやかです。

夕食を食べながらふと思ったことがあります。夫と二人で食事に行ったら、何を話す？何も話すことないな…。暫く考えましたが、やっぱり話題がないと思いました（笑）。それを夫に伝えたら、「話題あるよ！最近どうですか？」と言っていました（笑）。

## 編集後記 by 編集局

今月号もお読み下さり有難うございます！

収まりかけていたコロナが再び猛威を振るい、行事予定が全てなくなっていました…。

そんな中でも発送作業にボランティアの方々が集まって下さり本当に感謝！です！

※プリズムアート倶楽部は、2月号まで休載となります。

ご支援 誠に有難うございます！

〈 2022 年 1 月 1 日～1 月 31 日 〉

寄付金：287,400 円

※今号発行時点で、  
寄付金として集計した分です。

## 回復プログラム 実践

- 「回復プログラム係」宛にお手紙で回答を送って頂ければ、スタッフより個別に返信致します。  
事務局やフランススコ等、他のお手紙との同封はせず、個別に「回復プログラム係」宛に送付して下さいますようお願い致します。

### 【第十回目】

- ・社会に出る前に、被害者に対しての思いを整理する。
1. 被害者の前に立つ自分を想像し、被害者に何と「声かけ」をしますか。
  2. 自分がもし被害者だったら、加害者である「あなた」に何と言いたいでしょうか。  
真摯に考えて、その時の思いをひとつひとつ丁寧に書いてみて下さい。
  3. 被害者に対して、あなたができることは何でしょうか。  
心に思い浮かぶことを全て、書いてみて下さい。

## お知らせ

○フランススコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランススコ事業部を利用されない方は、会費の分納が可能です。

なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう、何卒お願い致します。

○下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

- 突然たよりが送られなくなった。
- 刑期（出所日）が変更になった。
- 入会申込書もしくは会費を送った後、2か月経っても、マザーハウスから何も届かない。
- 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料800円分が必要です）。

○会費やフランススコの費用を切手で納める場合（84円以上の切手のみ使用可）は、1枚につき現金交換手数料5円がかかります。

（例）100円切手×5枚の場合：500円－手数料5円×5枚分＝受領額475円

○絵画を獄中 POST シリーズへ応募する際は、その旨を都度、ご明記願います（明記無い場合には、たよりでのみ掲載となります）。

○たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、宜しくお願い致します。



## マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

♪製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria\_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 粉200g または 豆200g …… 972円 (税込)

カフェドリップ10g (1回分) …… 108円 (税込)



### ☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会



### ☆ルワンダの祈り☆

ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

## マリアの紅茶

♪オーガニックの純スリランカ産のセイロンティーです。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria\_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 50g (2g入り25袋) …… 756円 (税込)

オンラインでのご注文: <https://mariacoffee.shop/> (QR ↓)



## マザーハウスたより 22'02月号

発行日: 2022年2月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志  
〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-3F NPO法人マザーハウス



↑理事長 Facebook ↑理事長奥さんブログ ↑MLP問合せ

## ラウレンシオ（便利屋業）

♪元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

(2020年12月より、株式会社ルツに移行しました。)

TEL: 03-6659-2110 / FAX: 03-6659-2180

メール: info@ruth-llc.co.jp

## 獄中POSTシリーズ

♪獄中ボランティアが描いた絵画類を、ポストカード等に印刷する企画です。

メール: motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)

価格: ポストカード …… 1枚300円 / 3枚800円

シール …… 1シート800円

ホームページ: <https://motherhouse-jp.org/project/goku-pos/> (QR ↓)

☆詳細はホームページのカタログをご参照下さい。

☆収益は特に、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。



## 古本募金（きしゃぼん）

♪書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先: 〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぼん係

(マザーハウス事務所に送らないようお願いください)

TEL: 0120-29-7000

## お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ: 「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



## ご支援

☆正会員（一口5000円／年） ☆賛助会員（一口3000円）

☆社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

→振込口座名:

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ）マザーハウス】

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL: 03-6659-2110)